

2024年2月20日

各位

会社名株式会社リボミック
代表者名代表取締役社長中村義一
(コード番号: 4591東証グロース)
問合せ先財務経理部長今井利哉
<https://www.ribomic.com/contact.php>

**第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）及び
第16回新株予約権（行使価額修正条項付）に係る
資金使途及び支出予定時期の変更に関するお知らせ**

当社は本日開催の取締役会において、2020年1月10日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」及び、2022年10月11日付「第三者割当による第16回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」並びに2022年6月13日付「新株予約権の行使期間満了、特別利益の発生、資金使途、金額及び支出予定時期変更に関するお知らせ」において公表いたしました第15回新株予約権及び第16回新株予約権により調達した資金の資金使途及び支出予定時期について、下記のとおり変更することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 資金使途及び支出予定時期の変更の内容

(1) 変更の理由

当社は、2020年1月10日付「第三者割当による第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、当社が中長期的に成長するために、既存パイプラインを継続的・重層的に拡大することを意図し、RBM-007を用いた医薬品開発、心不全に対する新薬であるRBM-003の研究開発、変形性関節症に対する新薬であるRBM-010の研究開発を目的とした第三者割当による第15回新株予約権の発行による資金調達を実施いたしました。

また、2022年6月13日付「新株予約権の行使期間満了、特別利益の発生、資金使途、金額及び支出予定時期変更に関するお知らせ」にて調達する資金の額、資金使途及び支出予定時期を変更する旨を開示いたしました。

その後、2022年10月11日付「第三者割当による第16回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、既存パイプラインの継続的・重層的な拡大を目的として、非臨床試験段階のパイプラインの1つであるRBM-011を用いた肺動脈性肺高血圧症の研究開発、薬効の効率性及び早期の収益性の観点からアダマールの新規用途開発としてドラッグデリバリーシステム用アダマールを中心とした探索研究を目的とした第三者割当による第16回新株予約権の発行による資金調達を実施いたしました。

実際に調達した金額、資金の支出状況、当社パイプラインの開発状況、ならびにアダマールのモダリティ（治療手段）を生かした疾患領域等を考慮し、第15回新株予約権及び第16回新株予約権で予定していた具体的な資金使途項目に充当する金額及び支出予定時期等を以下の背景により変更いたしました。

① RBM-007 の加齢黄斑変性及び軟骨無形成症を対象とした臨床開発費用（臨床開発のための薬剤合成費用を含む）

滲出型加齢黄斑変性に関する米国での第2相臨床試験は予定通り完了し、単剤治療の臨床POC（Proof of Concept）を明らかにすることができました。今後は、ライセンス・アウトあるいは共同開発によって本剤の上市を目的とする未治療患者を対象とした臨床試験の実施を検討してまいります。

軟骨無形成症に関しては、2022年8月に競合品となるBIOMARIN社のボックスゾゴ®の製造販売が日本でも開始されました。当初の計画時点においては本剤の治療開始は想定していなかったため、競合によってRBM-007の第2相臨床試験の症例登録に若干の遅れが生じています。しかし、その一方で、ボックスゾゴ®無効例に対するRBM-007の効果を明らかにすることができれば大きな成果となるため、その検証を目的に支出予定時期の見直しを行ったことによるものであります。

なお、ボックスゾゴ®は、毎日の皮下投与が必要ですが、RBM-007の投与間隔は1、2週間と長いため、患者様の期待は高いものと考えております。

② アプタマーのモダリティ（治療手段）を生かした疾患領域の再検討

世界初のアプタマー医薬品となったMacugen®（抗VEGF薬）や近年承認されたアプタマー医薬品 IZERVAY™（抗補体C5薬）はいずれもwet AMDやdry AMD（萎縮型加齢黄斑変性）などの網膜疾患に対する硝子体内投与薬であり、当社のRBM-007もwet AMDに対する治療薬として臨床POCが確立できたことを考えると、アプタマーは網膜疾患にフィットするモダリティ（治療手段）であることが強く示唆されます。同時に、網膜疾患の医薬品開発においては安全性が高く、投与薬剤量も微量で済むことが利点になります。当社はこれまで全身投与型のアプタマー医薬品の開発を進めてまいりましたが、現在進めている軟骨無形成症のようなUnmet Medical Needsの高い医薬品開発を除いて、今後は網膜疾患を標的とするアプタマー医薬品の開発に注力していく方針であります。

そこで、以下の資金使途について変更いたします。

RBM-003の心不全を対象とした非臨床試験費用

物質特許が日米で特許査定され、原薬の分析技術の確立も達成されたことから、臨床応用を検討してまいりましたが、当社の開発方針の策定により優先順位を変更するものであります。

RBM-010の変形性関節症を対象とした非臨床試験費用

局所徐放製剤化技術の研究開発活動を進めておりますが、小スケールでの処方検討が完了した一方で、実際に動物試験を実施するためのスケールアップ製造と最適化において製剤受託製造会社との協議と試製造を継続しております。「局所徐放製剤化」の実証がRBM-010の臨床開発の条件となるため、優先順位を変更いたしました。

なお、RBM-011の肺動脈性肺高血圧症を対象とした非臨床試験においては、薬効試験、GMP薬剤合成、安全性試験の非臨床試験が当初目的通りに完了し、今後はライセンス・アウトにより臨床試験を進める方針であります。

③ ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用

第16回新株予約権の発行により資金調達いたしましたドラッグデリバリーシステムを始めとする探索研究が順調に進捗しております。

要素技術開発において、アプタマー・ドラッグ・コンジュゲート（ApDC）の開発に向けた慈恵大学との共同研究を始め、製薬企業様も含めた新規協業に向けた取り組みが進捗しております。当社としては、本プロジェクトの研究開発の優先順位を上げ、さらに研究開発を促進させることを目的として、第15回新株予約権により調達した資金を充当することといたしました。

また、研究開発は長期間にわたり継続的に行われることから支出予定時期を延長しております。

④ 新規技術開発費用（製剤化技術開発・導入他）

PEG代替ポリマーの研究において、想定よりも早期に候補化合物を発見することが出来たため、当初の支出予定額よりも支出が下回ったことによるものです。

⑤ 運転資金

安定的な収益の確保が出来るまでの当面の当社における既存事業の維持において、今後の運転資金の必要額を鑑みて、運転資金の支出予定額、及び支出予定時期の見直しを行ったことによるものです。

(2) 変更内容 (変更箇所を下線を付しております。)

• 第15回新株予約権

(変更前)

| | 具体的な使途 | 充当予定額 (百万円) | 支出予定時期 |
|---|---|----------------|-----------------------------|
| ① | RBM-007の加齢黄斑変性症及び軟骨無形成症を対象とした臨床開発費用 (臨床開発のための薬剤合成費用を含む) | 3,239 | 2020年1月 ～ <u>2025年3月</u> |
| ② | RBM-003の心不全を対象とした非臨床試験費用 | <u>601</u> | 2020年1月 ～ <u>2025年3月</u> |
| ③ | RBM-010の変形性関節症を対象とした非臨床試験費用 | <u>297</u> | 2020年1月 ～ <u>2025年3月</u> |
| ④ | 新規技術開発費用 (製剤化技術開発・導入他) | <u>284</u> | 2020年8月 ～ <u>2025年3月</u> |
| ⑤ | 運転資金 | <u>1,065</u> | 2020年1月 ～ <u>2024年3月</u> |
| | 合計 | 5,485 | — |

(変更後)

| | 具体的な使途 | 充当 (予定) 額 (百万円) | 支出 (予定) 時期 |
|---|---|----------------------|------------------------------------|
| ① | RBM-007の加齢黄斑変性症及び軟骨無形成症を対象とした臨床開発費用 (臨床開発のための薬剤合成費用を含む) | 3,239 (2,014) | 2020年1月 ～ <u>2026年3月</u> |
| ② | RBM-003の心不全を対象とした非臨床試験費用 | <u>40</u> (40) | 2020年1月 ～ <u>2023年12月</u> |
| ③ | RBM-010の変形性関節症を対象とした非臨床試験費用 | <u>80</u> (80) | 2020年1月 ～ <u>2023年12月</u> |
| ④ | 新規技術開発費用 (製剤化技術開発・導入他) | <u>95</u> (90) | 2020年8月 ～ <u>2024年3月</u> |
| ⑤ | <u>ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用</u> | <u>502</u> (0) | <u>2024年3月</u> ～ <u>2026年3月</u> |
| ⑥ | 運転資金 | <u>1,530</u> (1,046) | 2020年1月 ～ <u>2025年3月</u> |
| | 合計 | 5,485 | — |

(注) 上記の充当 (予定) 額欄の括弧書きの数値は2023年12月末時点における充当済金額となります。

- 第16回新株予約権

(変更前)

| | 具体的な用途 | 充当予定額 (百万円) | 支出予定時期 |
|----|--|----------------|----------------------|
| ① | RBM-011 (肺動脈性肺高血圧症に対するアプタマー医薬) の研究開発費用 | 606 | 2022年10月 ~2025年3月 |
| ② | ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用 | 494 | 2022年10月 ~2025年3月 |
| ③ | 運転資金 | 192 | 2023年4月 ~2025年3月 |
| 合計 | | 1,292 | — |

(変更後)

| | 具体的な用途 | 充当(予定)額 (百万円) | 支出(予定)時期 |
|----|--|------------------|----------------------|
| ① | RBM-011 (肺動脈性肺高血圧症に対するアプタマー医薬) の研究開発費用 | 606 (378) | 2022年10月 ~2025年3月 |
| ② | ドラッグデリバリーシステム用アプタマーを中心とした探索研究費用 | 494 (231) | 2022年10月 ~2026年3月 |
| ③ | 運転資金 | 239 (0) | 2023年4月 ~2026年3月 |
| 合計 | | 1,339 | — |

(注) 上記の充当(予定)額欄の括弧書きの数値は2023年12月末時点における充当済金額となります。

2. 業績に与える影響

本件による2024年3月期の業績に与える影響は軽微であり、2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期通期業績予想に変更はありません。

以上